

2019年6月6日

J R A 報 道 室

お知らせ

2019ベルモントステークス 日本馬の近況について(6月6日)

現地時間6月8日(土)にアメリカのベルモントパーク競馬場で行われるベルモントステークスに出走予定の日本馬の調教状況および関係者のコメントをお知らせします。

ベルモントステークス(G1 ダート・2400m)

●マスターフェンサー(牡3歳 栗東・角田 晃一 厩舎)

【本日(現地時間6月5日)の調教状況】

ベルモントパーク競馬場

トレーニングトラック(ダートコース) - ダク半周、ハッキング1周半

メイントラック(ダートコース) - 単走で5ハロンから追い切り <調教時計 61.28(5F)>

ゲートスクーリング

J. ルパルー 騎手 騎手 騎乗

【関係者の話】

[角田 晃一 調教師]

調教の動きは、チャーチルダウンズの時と比べてスピード感があつたと思います。調教過程で言えば今回の方が順調に来ていると思います。ケンタッキーの時は体を戻さないと、という意識もありましたが、今回はレースに向けて専念できました。馬も落ち着いているし、あとは無事に走ってくれればと思います。

(枠順について) 外側から順番に決まっていたので、どうなるかと思いましたが、結果的には内枠を望んでいたのが良かったと思います。くじ順が1番最後だったので残り物には福があると信じています。

[J. ルパルー 騎手]

チャーチルダウンズにいた時よりもずっと良くなっていると思います。前は押して押して、ようやくといった感じもありましたが、今回は持ったままでタイムも出ており、満足できるものだったと思います。

(枠順について) 内側に2頭しかいないので、レースもしやすいと思うし、良い枠に入ったと思います。